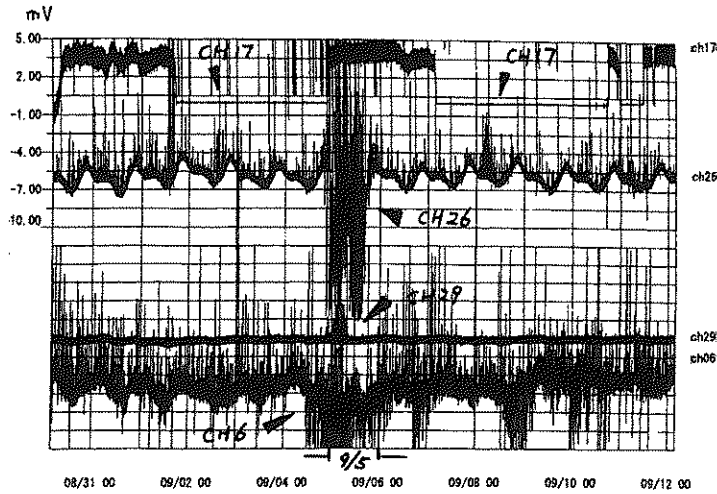


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

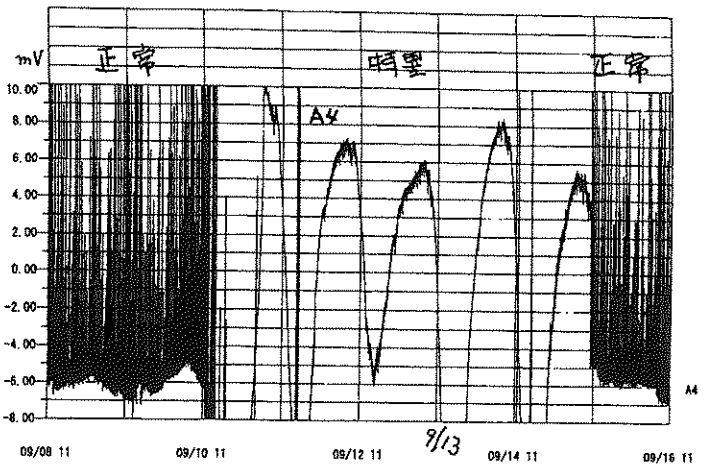
No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報 現況報告

① 9 / 5 極大認識



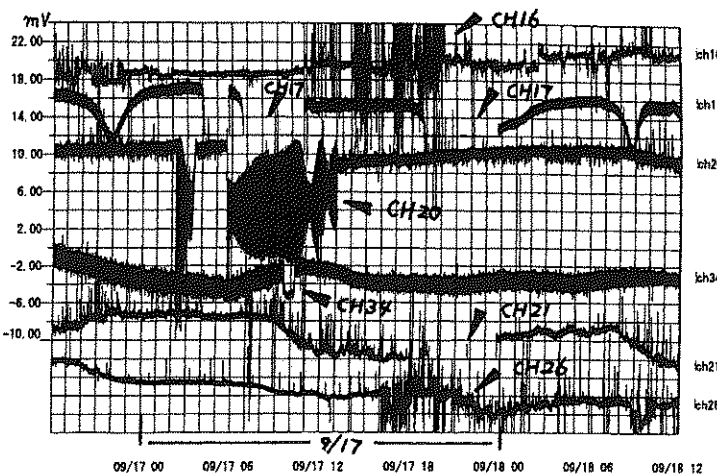
第5万前兆群から示された日が9/5であった。9/5に上図のとおり、CH26、CH29、CH6に顕著なType IIの特異状態が出現。CH17は、9/5の両側に糸状特異。M₀極大(お碗型)の可能性もあるが確定は困難。CH6、26、29 特異で極大認識。

② 9 / 13 極大認識



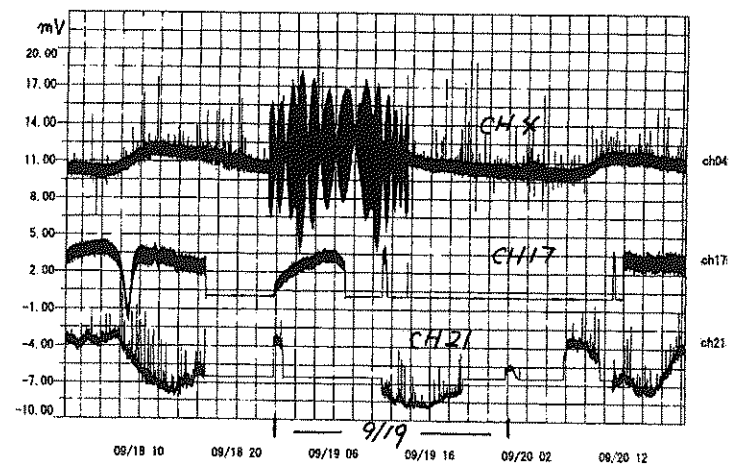
秋田観測点A4が糸状特異。中心は9/12深夜~9/13未明。— 応9/13の00時を中心とし、9/13極大認識としている。

③ 9 / 17 極大認識



上図のとおり、CH16、20、26にType IIの特異出現。CH17、34、21、に糸状特異Type I 出現。全て9/17に出現のため、9/17を極大認識。

③ 9 / 19 極大認識



上図のとおり、CH4 にType II 特異出現。9/19同日にCH17とCH21も糸状特異出現。9/19極大認識。

※続報No.44、45は、FAX による実験観測情報No.2416-1/2 2/2を転載させて頂きました。(図の解説は次頁No.45参照)

日々の変化はFAX による実験観測情報で報告させて頂いております。

HPでは、細かくご報告できず、申し訳ありません。

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報 現況報告

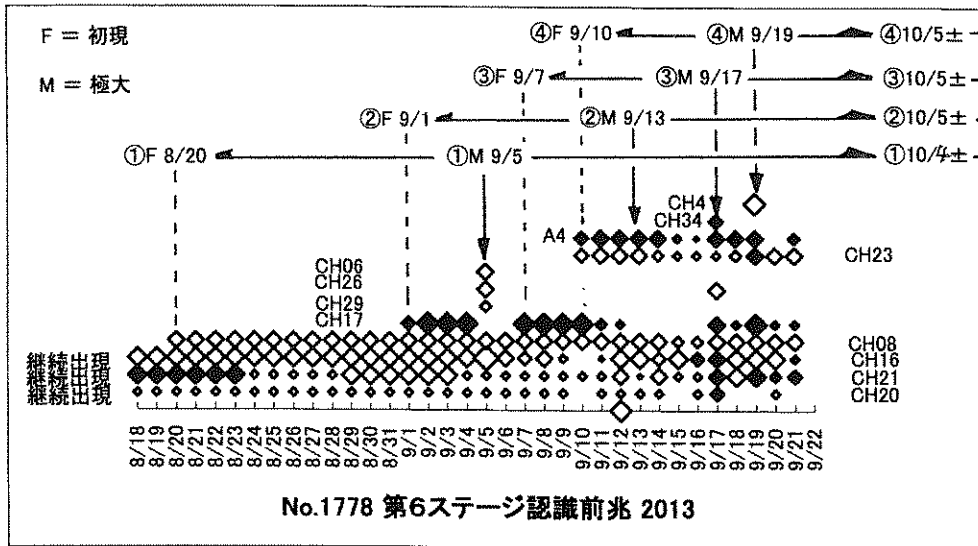
No.1778=2008年7月初旬より5年2ヶ月以上に渡る、過去例の無い長期継続前兆です。5年の間、6ステージとなる前兆群が団塊的かつ段階的に出現し、各ステージ中に多数の極大が出現すると云う、過去例が全く無い初めて体験する極めて特殊な地震前兆形態です。その続報、現況報告です。

第5ステージ前兆群が示した、9/5に極大認識できる前兆変動が観測されました。その後、現在までに前頁の4つの極大認識できる前兆変動が観測されました。下図は現在の第6ステージ前兆群認識の前兆出現変化状況図ですが、前兆が継続出現した

した部分を初現認識し、前述の各極大に対応させますと、下枠内の時間的前兆変化経験則を使用して、全て10月05日±を示す結果となっています。

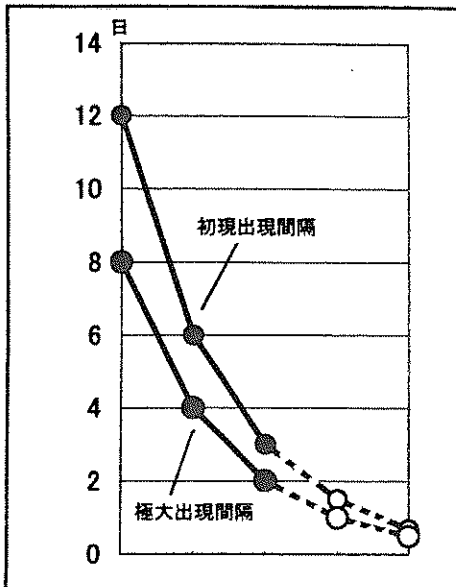
初現認識、極大認識が正しいか否か断定は困難ですが、現状はこの関係が認識しやすい状況です。

【経験則】	
(T _{fap})	(T _{map})
初現～発生：極大～発生=20:13	より
初現～極大：極大～発生=7:13	



- ④初現=9/10 (CH23, A4)
極大=9/19 (CH4, 17, 21)
初現～極大= 9日
極大9/19+T_{map}16, 7=10/5±
- ③初現=9/7 (CH17)
極大=9/17 (CH34, 16, 21 等)
初現～極大=10日
極大9/17+T_{map}18, 6=10/5±
- ②初現=9/1 (CH17)
極大=9/13 (A4)
初現～極大=12日
極大9/13+T_{map}22, 3=10/5±
- ①初現=8/20 (CH08)
極大=9/5 (CH6, 26, 29)
初現～極大=16日
極大9/5 +T_{map}29, 7=10/4±

No.1778 第6ステージ認識前兆 2013



第6ステージの初現と極大の出現間隔変化

9月5日極大から現在が第6ステージ前兆群と認識しています。左上図のとおり初現～極大の関係が仮に正しい場合は、右上記のとおり、経験則を使用して全て同じ時期=10月5日±が計算されることとなります。

左上図の初現認識、極大認識の出現の間隔が徐々に短くなっていることにお気づきおなれると思いますが、間隔日数をみまると、左グラフのとおりとなり、間隔日数は半減、半減の関係となっています。左グラフのとおり、例えば9/19極大の次ぎに極大が出現するとしても、間隔日数が1～2日程度となり、識別困難となり、この間隔関係では極大が出現できない状況となることが予想されます。

本日9/21現在、CH17は午前中に短時間糸状態。CH21も同様に断続的に糸状態で前頁①～④の様な顕著な極大認識はできませんが、9/19のあとは、間隔が詰まった状態で初現、極大が現れる可能性も示唆されますので、その関係で特異状態が出現している可能性も示唆されます。仮に現在の認識が正しい場合は、最終の極大が仮に9/21±と仮定しますと、第6ステージが示す日を10月5日±とした場合、10月2日±頃まで前兆が継続し、終息する可能性が計算できます。

第4ステージ前兆群期間=345日 第5ステージ前兆群期間=134日 第5ステージ前兆群期間=30日 と言う関係になっておりますので、現在の認識が仮に正しい場合は、この第6ステージの後に第7ステージが出現するとしても一週間程度の長さとなる可能性もあり、現在の第6ステージが最終前兆群である可能性も否定はできません。10月2日±に前兆が全て終息するか？が注目されます。またここ数日中に前兆が静穏化してくるかも重要です。注意して観測と検討を続けます。続報にご注意下さい。